

東京湾で漁獲されたアメリカウミザリガニ

工藤 孝浩

Takahiro Kudo: A New Record of American Lobster *Homarus americanus* H. Milne Edwards, 1837 (Crustacea, Nephropidae) from Tokyo Bay

Summary. A specimen of *Homarus americanus* H. Milne Edwards, 1837 was collected by beam trawl net at bottom off Yokohama, Tokyo Bay. This is the first record on the bases of specimen from the bay.

はじめに

アメリカウミザリガニ *Homarus americanus* H. Milne Edwards, 1837 は、大西洋西岸のニューファウンドランド（カナダ）からノースカロライナ（アメリカ合衆国）に分布する大型の海産ザリガニである（Holthuis, 1991）。

本種は本来日本沿岸には分布しないが、これまでに人為的放流もしくは放逐の可能性のある2例の採集記録が国内から知られている（渡部, 1993; 上田, 2008）。このたび東京湾で操業する小型機船底びき網漁船が1個体を漁獲し、その個体を入手する機会を得た。東京湾には、すでに様々な外来生物が侵入、定着しているが（日本プランクトン学会・日本ベントス学会 編, 2009）、本種の出現はこれまでに確認されていない。東京湾における本種の出現は、外来生物の新たな出現記録にとどまらず、近年輸入量が増えている高級水産生物である点からも大変に興味深い事例であるので、ここに報告する。

調査標本の概要

漁獲場所: 東京湾浦賀水道航路7番ブイ（北緯 39 度 19 分 50 秒, 東経 139 度 42 分 10 秒）から北へ 30 分曳網で往復（曳網ライン長約 2.5 km）、水深 40 ~ 50 m (図1)

漁獲年月日時: 2012 年 7 月 15 日 (日) 午前 5 時 30 分から 6 時 30 分

漁獲方法: 小型機船底びき網

漁獲漁船: 森市丸（横浜市漁業協同組合柴支所所属）

標本番号: YCM-C（横須賀市博物館甲殻類資料）00993

計測値: 体長 300.1 mm, 甲長 114.6 mm, 甲幅 76.14 mm, 体重 1,194 g

本標本は, *Homarus* Weber, 1795 に特徴的な第1胸脚は扁平な大型鉗を形成し, 甲面とともに平滑で無毛。額角の下面には前方を向いた1歯を有する。以上の標徴から, Holthuis (1991) に基づき本種と同定された。右の第2触角鞭状部は体長とほぼ同長だが, 左の同形質は欠損していた。生時の体色は杉浦・朝倉 (2012) の図とよく一致した。すなわち, 体全体は暗赤紫褐色を帯びており, 左右の鉗脚は甲面よりも濃い色調で, 可動指と掌部中央は濃赤橙色を帯びる。第2~5胸脚は灰緑色で, 指節・前節と長節の一部は淡灰赤色。尾扇は橙褐色で,

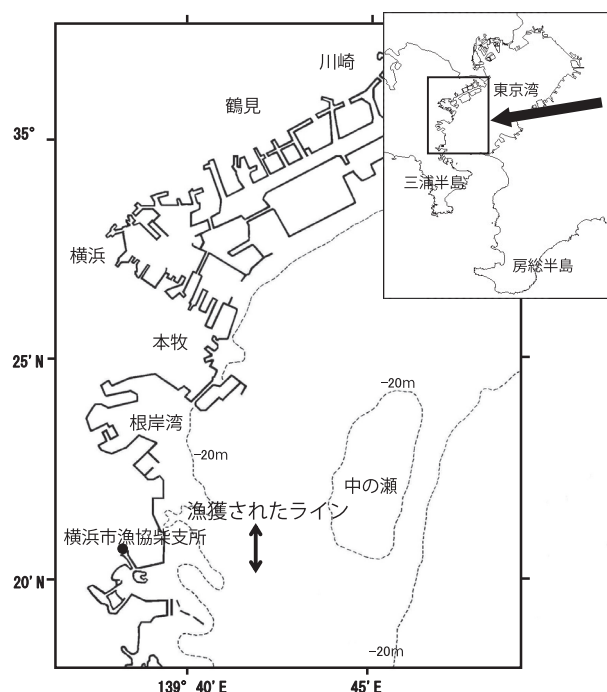


図1. 漁獲された曳網ライン。

Fig. 1. Map showing collected line from Tokyo Bay.



図 2. アメリカウミザリガニ *Homarus americanus* H. Milne Edwards, 1837, YCM-C 00993 (300.1mm).
Fig. 2. *Homarus americanus* H. Milne Edwards, 1837.

縁辺部は暗赤紫色に縁取られる(図 2)。

論 議

本種並びに大西洋東岸に分布する同属のウミザリガニ *H. gammarus* (Linnaeus, 1758) は、オマールエビと総称される重要な水産生物である。オマールエビは欧米では古くから高級食材として珍重されており、近年は日本への輸入も増えており、年間 2,000 ～ 2,800 トンもが冷凍あるいは活かしたまま空輸されている(上田, 2008)。

これまでの国内における本種の出現記録は、1990 年 12 月に神奈川県大磯沖の相模湾(渡部, 1993)、2007 年 12 月に徳島県太平洋岸(上田, 2008) の少なくとも 2 例が知られており、いずれも人為的な放流あるいは放逐の可能性が指摘されている。今回本種が漁獲された東京湾は、前 2 例の海域とは対照的に外航船舶の出入りが激

しい。しかし、原産海域である大西洋北西岸から東京湾への航海には数ヶ月を要するため、バラスト水とともに取り込まれた幼生や船体のシーチェスト部等へ潜入した稚エビが生き残る可能性は著しく低い。また、航海日数が短縮されるパナマ運河を通過する際には淡水に暴露されるので、特に船外に潜入した個体が生残する可能性はほぼないと考えられる。以上の理由から、今回の出現は非意図的な侵入によるものとは考え難い。

本種の体長は通常 250 mm 以下(最大で 640 mm)とされており(Holthuis, 1991)、国内における前 2 例はともに体長 250 mm、体重 500 g 前後であった。調査した個体は全長 300.1 mm、体重 1,194 g と大型であるが、冷水性で貧酸素耐性も低いとされる本種が東京湾の夏を乗り越えて長期間生存したとは考え難い。2011 年夏季以降に、すでに大型に育った個体が人為的に東京湾へ放流または逸出した可能性が最も高いと推察される。

謝 辞

標本を提供していただいた調理師の佐々木隆之氏、標本入手の便宜を図ってくださった「海をつくる会」の中村和典氏、標本の登録でお世話になった横須賀市自然・人文博物館学芸員の萩原清司氏、貴重な助言をいただいた元葉山町立しおさい博物館館長の池田 等氏に謹んで感謝の意を表する。また、本報告を査読いただき、有益な助言を与えられた千葉県立中央博物館分館海の博物館学芸員の奥野淳児氏に対し、厚く御礼申し上げる。

引用文献

- Holthuis, L. B., 1991. FAO species catalogue. Vol. 13. Marine lobsters of the world. An annotated and illustrated catalogue of species of interest to fisheries known to date. 151 pp., Food and agriculture organization of the United nations, Rome.
- Milne Edwards, H., 1837. *Homarus americanus*. In *Histoire naturelle des Crustacés*, pp. 334-335, Librairie encyclopédique de Roret, Paris.
- 日本プランクトン学会・日本ベントス学会 編, 2009. 海の外来生物—人間によって攪乱された地球の海. 298 pp. 東海大学出版会, 秦野.
- 杉浦千里 画・朝倉 彰 解説. 2012. 杉浦千里博物画図鑑—美しきエビとカニの世界. 96 pp. 成山堂書店, 東京.
- 上田幸男, 2008. 徳島県太平洋岸に出現したアメリカンロブスター. 徳島水研だより, (65): 15-27. Online. Available from internet: http://www.pref.tokushima.jp/files/00/01/24/85/s_dayori/s_dayori65-3.pdf (downloaded on 2012-8-30).
- 渡部 元, 1993. 相模湾から得られたアメリカウミザリガニ *Homarus americanus* (H. Milne Edwards, 1837). *CANCER*, (3): 3-4.

工藤孝浩：神奈川県水産技術センター